



一般社団法人
カメラ映像機器工業会
Camera & Imaging Products Association
〒108-0023 東京都港区芝浦 3-8-10 MA 芝浦ビル 3階
TEL. (03) 5442-4800 (代表)

PRESS RELEASE

2019年2月1日

一般社団法人カメラ映像機器工業会（CIPA）

2019年カメラ等品目別出荷見通し

一般社団法人カメラ映像機器工業会（CIPA：代表理事会長 牛田一雄）は、このほど2019年カメラ等品目別出荷見通しをまとめた。

1. 2018年出荷実績

デジタルカメラ合計 77.8%、レンズ交換式に主力が移るもレンズ一体型の大幅減が響いた。

2018年（1～12月累計）のデジタルカメラ総出荷実績は19,423,371台（別表は十万台単位とした）、対前年比77.8%となった。

1999年の統計開始から劇的なまでの市場拡大を続けたが、世界的な景気後退の影響を受けた2009年に初めて減少、2011年も東日本大震災やタイ国洪水による深刻な打撃を受けて減少、以降は減少が続き、2017年こそ増加に転じたものの、2018年は再び前年割れとなった。

一眼レフカメラとミラーレスカメラからなる高付加価値・高単価商材であるレンズ交換式デジタルカメラに主力が移る一方で、総出荷台数の4割以上を占めるレンズ一体型デジタルカメラが870万台に留まり対前年比65.1%と大幅減になったことなどからデジタルカメラ合計では前年の8割に届かない結果となった。

レンズ一体型デジタルカメラにも高付加価値の機種はあるが、交換レンズ群と組み合わせることで写真の表現力が飛躍的に高まるレンズ交換式デジタルカメラほどにはスマートフォンに対するアドバンテージを打ち出し難いカテゴリーであり、スマートフォンの攻勢の矢面に立つ状況が続いた。

レンズ交換式デジタルカメラ、交換レンズは前年の9割以上の実績。

レンズ交換式デジタルカメラは1,080万台、対前年比92.2%、これに対応する交換レンズは1,800万本、対前年比93.8%となった。

写真撮影を極めるのなら撮影シーンや被写体に合わせて最適な交換レンズを使い分けられるレンズ交換式デジタルカメラが唯一無二の選択肢。スマートフォンが爆発的に普及してもはや

世界中の誰もがスマートフォンを手にしたと言っても過言ではない状況の中、スマートフォンを契機に写真の楽しさに目覚めた多くのユーザーにとって、スマートフォンでは撮れなかったシーンを今度こそ撮影するために、あるいは自分の思い描く写真表現を何としてでも実現するために本気撮りのパートナーをデジタルカメラに切り換える、いわゆるステップアップ需要の受け皿となっており、前年並みとはいかなかったものの大きく崩れることはなかった。

同様に、既にレンズ交換式デジタルカメラのユーザーとなっただけでいる方がさらに写真突き詰めたい、撮影システムをアップグレードしたいというモチベーションを持ち続けていただいていることも当業界の推進力であり、レンズ交換式デジタルカメラ（ボディ側）の台数に対して交換レンズ側の本数が1.6～1.7倍の高水準で推移する傾向が続いたことは、多くのユーザーが飽くことなく写真を追求いただいていることのバロメーターといえる。

レンズ交換式デジタルカメラにおいてはミラーレスカメラの躍進が目立つが、ミラーレスカメラ好調の要因としては買い替えではなく買い増しの潮流に注目したい。

各社の製品展開が活発化する今、デジタルカメラのユーザーは、一眼レフカメラとミラーレスカメラ、複数台を所有した上で撮影シーンに応じてこれまで以上に幅広い選択肢の中から最適なカメラやレンズを持ち出すといった撮影システムのダイナミックな拡張を志向いただけるようになった。すなわち当業界にとっては、特性の異なる両カテゴリーのシナジーにこそ期待したい。

地域別実績は、デジタルカメラ全体では「日本向け」80.8%、「日本向け以外」77.3%。レンズ一体型デジタルカメラでは「日本向け」77.5%、「日本向け以外」62.5%、レンズ交換式デジタルカメラでは「日本向け」87.0%、「日本向け以外」92.8%。

交換レンズは「日本向け」88.1%、「日本向け以外」94.6%となった。

長期的には「日本向け以外」の比率が高まる傾向にあるが、2018年はカテゴリーによる違いが出た。レンズ交換式デジタルカメラ及び交換レンズは「日本向け」に対して「日本向け以外」の前年比がやや高めに振れた。

2. 2019年出荷見通し

2019年（1～12月累計）のデジタルカメラ総出荷は、1千690万台、対前年比87.1%、内「日本向け」250万台、89.3%、「日本向け以外」1千440万台、86.7%と見通した。

タイプ別では、レンズ一体型デジタルカメラは690万台、対前年比79.3%、内「日本向け」150万台、83.3%、「日本向け以外」540万台、78.3%、レンズ交換式デジタルカメラは1千万台、92.6%、内「日本向け」100万台、90.9%、「日本向け以外」900万、92.8%と見通した。

交換レンズは、1千650万本、対前年比91.7%、内「日本向け」180万本、85.7%、「日本

向け以外」1千470万本、91.9%と見通した。

2018年同様、レンズ一体型デジタルカメラの低減がデジタルカメラの合計台数に大きく影響するものの、レンズ交換式デジタルカメラに関しては前年の9割以上、さらに、交換レンズも前年の9割以上。レンズ交換式デジタルカメラ（ボディ側）の出荷台数に対してもう一つの主役である交換レンズの出荷本数が1.6～1.7倍ものスケールを誇る展開が続くと見通した。

注：2018年までの統計区分ノンレフレックスは2019年よりミラーレスに呼称を改める。

以上

2019年カメラ等品目別出荷見通し

一般社団法人カメラ映像機器工業会

単位:十万台(レンズは十万本)

品目	総出荷											
					日本向け				日本向け以外			
	2018年実績	前年比	2019年見通し	前年比	2018年実績	前年比	2019年見通し	前年比	2018年実績	前年比	2019年見通し	前年比
デジタルカメラ<合計>	194	77.8%	169	87.1%	28	80.8%	25	89.3%	166	77.3%	144	86.7%
レンズ一体型	87	65.1%	69	79.3%	18	77.5%	15	83.3%	69	62.5%	54	78.3%
レンズ交換式	108	92.2%	100	92.6%	11	87.0%	10	90.9%	97	92.8%	90	92.8%
交換レンズ	180	93.8%	165	91.7%	21	88.1%	18	85.7%	160	94.6%	147	91.9%

注:数値のうち四捨五入により計算の合わないものがある。

この件に関する問い合わせ先：
 一般社団法人カメラ映像機器工業会
 E-mail：infostat@cipa.jp
 URL：http://www.cipa.jp/